

スウェーデンにおけるインクルーシブ教育推進のための統合教育の保障  
—通常学校の学習指導要領と知的障害特別学校の学習指導要領の同時履修—

是永かな子

高知大学学術研究報告 第71巻  
抜刷 (2022)

# スウェーデンにおけるインクルーシブ教育推進のための統合教育の保障

—通常学校の学習指導要領と知的障害特別学校の学習指導要領の同時履修—

是永かな子

(高知大学教育研究部人文社会科学系教育学部門・高知ギルバーグ発達神経精神医学センター)

Guaranteeing Integrated Education to Promote Inclusive Education in Sweden  
: Simultaneous Registration of the Curriculum for Regular Schools and Special  
Schools for Children with Intellectual Disabilities

Kanako Korenaga

*Kochi University Research and Education Faculty Humanities and Social Science Cluster Education Unit,  
Kochi Gillberg Neuropsychiatry Centre*

**Abstract :** This study focused on strategies for promoting inclusive education in Sweden. In particular, the guarantee of integrated education both in the nine-year compulsory regular school (grundskola) and in the special school for children with intellectual disabilities (särskola) was analyzed based on relevant previous research and information from the official websites of the relevant institutions. Currently in Sweden, teaching practice was required to assume that there are children taking two curriculums in one classroom. Integrated education for the promotion of inclusive education not only guarantees the learning of special school children with intellectual disabilities in the regular school, but also the learning in the special school for children with intellectual disabilities who have completed the regular school curriculum but have difficulties learning in the regular school. Children in special schools for children with intellectual disabilities may be subject to regular school assessment, mild intellectual disability special school assessment and training school assessment. Children in regular schools have the possibility of completing the regular school assessment and the special school curriculum for children with intellectual disabilities. It was suggested that " Simultaneous registration of the curriculum for regular schools and special schools for children with intellectual disabilities " is not a binary integration in which education for children with intellectual disabilities is brought as close as possible to regular education, but is one of the measures for realizing pluralistic inclusion, in which regular municipal schools aim to guarantee the education of all children in the community.

キーワード : スウェーデン 統合 学習指導要領

Key words: Sweden Inclusive Education Curriculum

## 1. 研究の目的と方法

2006年に国連総会において採択され、2008年に発効した「障害者権利条約(第24条教育)」によって、世界的にインクルーシブ教育は既定路線になった。日本も2007年9月に同条約に署名し、2014年1月に批准書を寄託、2014年2月に同条約は日本について効力を発生した<sup>1)</sup>。

「障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み」としての「インクルーシブ教育システム(inclusive education system)」<sup>2)</sup>はいかに具体化されるのかという課題意識から、本稿では従前からインクルーシブ教育を推進し、障害者権利条約を2008年に批准したスウェーデンに注目し、インクルーシブ教育推進の方略を検討する。

中でも、9年制義務教育学校としての基礎学校(grundskola)と知的障害特別学校(särskola)双方方向の統合教育の保障について、関連する先行研究や関係機関公式Webサイト等の情報をもとに分析する。

スウェーデンの基礎学校と知的障害特別学校双方方向のインクルーシブ教育に注目する理由は以下である。

第一にスウェーデンは視覚障害、肢体不自由、病弱の特別学校を原則廃止するなど統合教育を推進してきたこと。

第二に学習指導要領(läroplan, 本報告では「学習指導要領」の表現に統一する)に関してスウェーデンは、図1に示されるように知的障害や聴覚障害をはじめとした特別な学校の学習指導要領や基礎学校の学習指導要領を1994年に義務教育段階・後期中等教育段階それぞれで一元化したものの、2011年に再度特別な学校の学習指導要領を告示したこと。

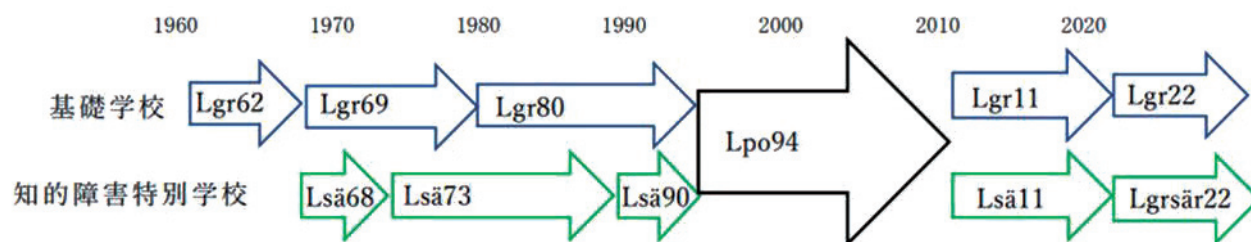


図1 基礎学校と知的障害特別学校の学習指導要領の改訂の概要

出典：著者作成。

ちなみに、今回2022年改訂においても特別な学校のカリキュラムを維持している。北欧のデンマーク、ノルウェー、フィンランドにおいて学習指導要領は一元化しており、通常の学習指導要領が履修できない場合は、個別の計画作成で対応している。

第三に知的障害特別学校のいっそうの統合を推進すべく2002年にカールベック委員会<sup>3)</sup>を招集して「知的障害特別学校解体」を議論したが、2004年には知的障害特別学校独自の学校形態を維持するとの結論を導いたこと。その上で知的障害特別学校も知的障害高等学校も通常学校との協働を増やし、多様な要求に対応する学校を目指す方向を示したこと、からである。

## 2. 結果

学校法(Skollag:2010:800)第7章第9条<sup>4)</sup>には「統合児(integrerade elever)」として、関係学校長と保護者の同意があれば、知的障害特別学校学習指導要領履修児が基礎学校で教育を受けられることと、基礎学校学習指導要領履修児が知的障害特別学校で教育を受けられることが示されている。その上、知的障害特別学校の名称も2023年7月2日以降、適応基礎学校 anpassade/英 adapted grundskolan に変更予定である<sup>5)</sup>。このように各学校制度は維持しつつも、より統合的な体制をめざす方向での改革が進められている。

学校庁は2015年の「統合児」というガイドライン<sup>6)</sup>によって、知的障害特別学校児と基礎学校児を対象に知的障害特別学校と基礎学校双方の学習指導要領を保障する「統合教育」を推進すること、統合児を教えるためには子どもが2つの異なる学習指導要領に基づいて学ぶことを前提とした教員の準備が必要であること、を示した。

そして統合の目的は子どもの社会的な成長のみであってはならず、知識の発展に焦点を当てなければならないと

し、社会性育成のみを追求する統合教育の危険性に言及する。

そのためにも統合では、図 2 に示されるような障害児「集団」が通常学級に統合される「集団統合 (gruppintegrering)」もあり得るとして、学校は統合児が同様の興味を有し、同程度の発達段階の子どもと会える環境を設定する必要があることも指摘する。

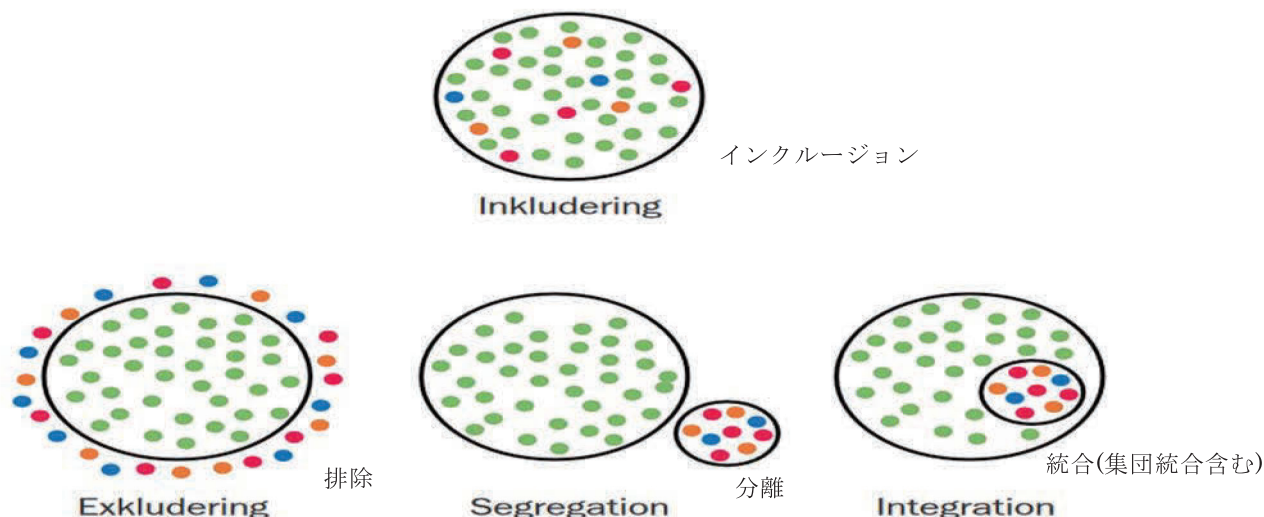


図 2 排除、分離、統合、インクルージョンのイメージ図

出典：Skolverket (2015) Integrerade elever, 34.

また、全ての学校に対して 4 年に 1 回視察を行う「学校視学官 (skolinspektionen)」は 2016 年に「統合教育を受ける子どもの教育状況」<sup>7</sup>を報告した。

この報告書では、複数種の学校で教育を受ける統合児、例えば知的障害特別学校学習指導要領を履修するが、授業の一部又は全部を基礎学校で受ける子どもの「教育の質」について検討した。例えば、「各自治体で過去 1 年間に統合児のいる学校に対して何らかの整備策を実施したか」に関する調査結果は図 3 のような状況である。

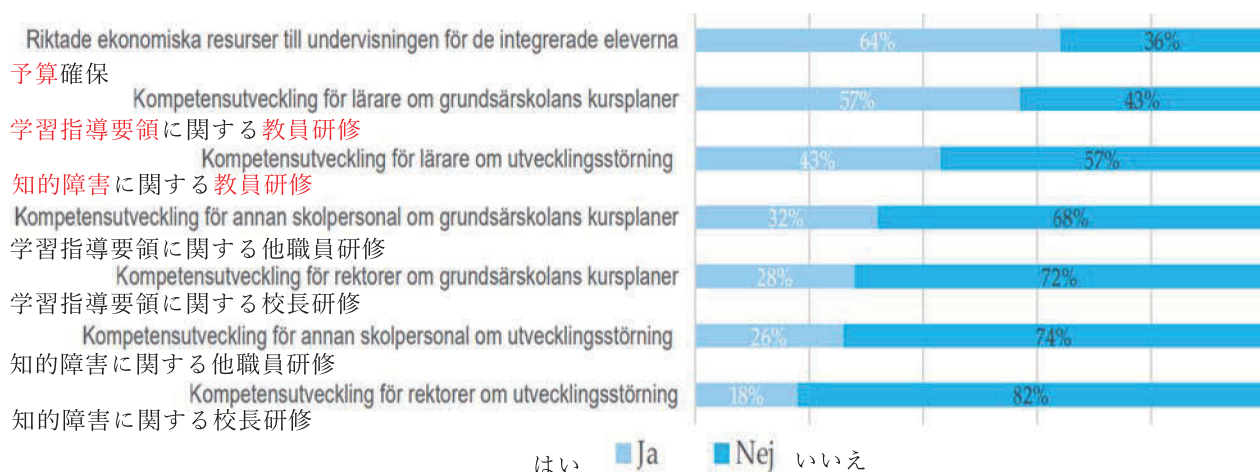


図 3 各自治体で過去 1 年間に統合児のいる学校に対して何らかの整備策を実施したか

出典：Skolinspektionen (2016) Integrerade elever Undervisningssituationen för elever som är mot-tagna i grundskolan och får sin undervisning i grundskolan, Kvalitetsgranskning 2016, 28.

予算の確保や学習指導要領に関する教員研修が多く取り組まれているようである。知的障害自体に関する教員研修や他職員、校長を対象とした研修は実施割合が低くなる。



次に、統合児の「評価」に関する調査結果は図4のような状況である。

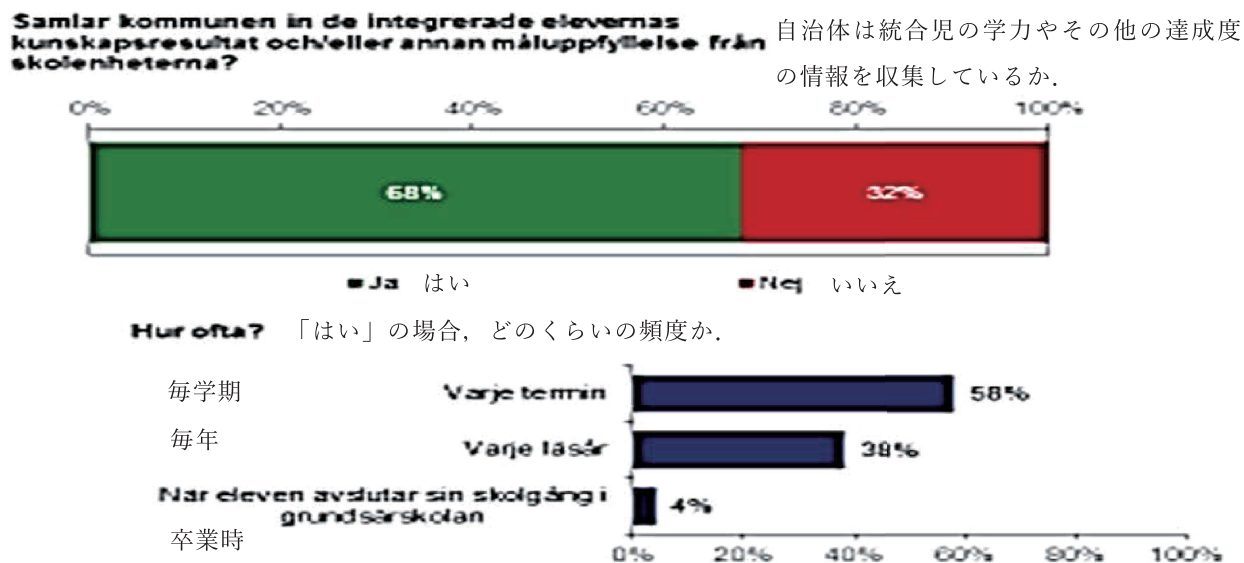


図4 自治体は統合児の学力やその他の達成度の情報を収集しているか。「はい」の場合、どのくらいの頻度か  
出典：Skolinspektionen(2016) Integrerade elever Undervisningssituationen för elever som är mot-tagna i grundskolan och får sin undervisning i grundskolan, Kvalitetsgranskning 2016, 27.

68%の自治体が統合児の学力やその他の達成度の情報を収集していることがわかる。その頻度も毎学期実施する学校が58%であるなど、丁寧な評価、検証が行われていることが推察できる。

そして、図5に示されるように、「子どもの通常学校への統合の判断に影響を与える要因は何か」についても調査している。

		Ingen betydelse		Mycket stor betydelse		平均値	回答者数
		1	2	3	4	Medel	Svarande
子どもの希望	Elevens önskemål	2%	13%	37%	48%	3,3	167
保護者の希望	Vårdnadshavares önskemål	1%	3%	20%	75%	3,7	167
地理的理由	Geografiska skäl	56%	21%	14%	9%	1,8	167
教育的理由	Pedagogiska skäl	6%	12%	34%	48%	3,2	167
社会的理由	Sociala skäl	7%	5%	43%	46%	3,3	167
経済的理由	Ekonomiska skäl	87%	9%	2%	2%	1,2	167
その他	Annat:	64%	8%	5%	23%	1,9	39
Totalt						2,6	167

図5 子どもの通常学校への統合の判断に影響を与える要因は何か

指標は1（まったく影響を与えない）2（やや影響を与えない）3（やや影響を与える）4（とても影響を与える）

出典：Skolinspektionen(2016) Integrerade elever Undervisningssituationen för elever som är mot-tagna i grundskolan och får sin undervisning i grundskolan, Kvalitetsgranskning 2016, 29.

このように、子どもの希望のみならず保護者の希望が尊重されていることが指摘されている。他にも教育的理由と社会的理由が重視されており、教育的インクルージョンや社会的インクルージョンが想定されている。しかし経済的理由はあまり影響を与えないと指摘されている。統合によって、特別な支援のための「特別な予算」が消失してしまった場合、インクルージョンが安上がりの「ダンプ（投げ込み）」になる危険性もあり、統合が進展し

なかった、という事例も紹介されている。

調査全体の結果としては、基礎自治体が権限を有する統合児の教育状況は様々であり、全ての特別学校児を基礎学校に統合する自治体や特別学校における教育を重視する自治体などがあったことが報告された。

その上で教員は2つの学校の学習指導要領に基づいて授業を計画し、異なる学習成果に対して子どもの進捗を評価しなければならない、と指摘した。

統合児を前提とした授業計画と評価を支援するために、国立特別教育研究所 (SPSM) は基礎学校に統合された知的障害児の学習に活用できる「学習教材一式」を開発して Web サイトで公開している<sup>8</sup>。

それは知的障害特別学校児の約 20% が基礎学校で教育を受けているためである、と。

同時に国立特別教育研究所は知的障害や発達障害の基準を満たすとは考えられないが、非常に深刻な学習障害がある場合の知的障害特別学校で学習する統合児の存在<sup>9</sup>についても言及している。よって、基礎学校の子どもであっても、知的障害特別学校で学習を保障する可能性について指摘しているものであり、統合が知的障害特別学校の子どもが基礎学校で学ぶのみならず、基礎学校の子どもが知的障害特別学校で学ぶことも想定している「双方向」の統合であることも「統合児」の特徴であると言える。

スウェーデンにおける知的障害児を対象としたインクルーシブ教育の前提として、知的障害特別学校の基礎学校敷地内設置、つまり「位置的統合(場の統合)」が 1960 年代から推進されていたこと、位置的統合の結果として隣接する知的障害特別学校と基礎学校の学校施設や設備、教材、教職員をはじめとした教育資源の日常的共有があること、そして知的障害特別学校と基礎学校の管轄が双方基礎自治体であることは、ここに示しておきたい。そのため、特別な学級は設置されておらず、実践として「統合児」が推進されている学校も多い。

では、学習指導要領が異なる前提での「評価」はどのように示されるか。

#### 資料 1 RONNEBY 基礎自治体の学習報告書(studieomdöme)例

**RONNEBY KOMMUN**  
Utbildningsförvaltningen

**Begäran om studieomdöme/ betyg i grundskolan**

**Skollagen 11 kap. Grundskolan**  
**Intyg och studieomdöme**  
17 § Eleven ska efter avslutad grundskola få intyg om den utbildning de gått igenom. Om en elev eller elevens vårdnadshavare begär det, ska intyget kompletteras med ett allmänt studieomdöme. Studieomdömet ska avse elevens möjlighet att bedriva studier. Intyget ska undertecknas av läraren.

**Betyg ska sättas i grundskolans ämnen i slutet av varje termin från och med årskurs 6 till och med höstterminen i årskurs 9 om elevens vårdnadshavare begär det. Betyg består av någon av beteckningarna A, B, C, D eller E. Högsta betyg betecknas med A och lägsta betyg med E. För den elev som inte uppnår kraven för betyget E, ska betyg inte sättas i ämnet.**

**Om du vill att ditt barn ska få betyg i grundskolan, ska du fylla i och lämna denna blankett till rektorn på skola senast två veckor före skolavslutning.**

**Efter att ditt barn har slutat som elev i grundskolan går det inte att få ett betyg.**

**Betyg begärs till**

Elevens namn	Personnummer	
Adress	Postnr	Ort
Namn på elevens skola	Årskurs eller klass	

**Underskrift**  
Ort och datum

Närskrivning Vårdnadshavare

Namn/förtydligande

**Åtgärd**  
Ort och datum

Intyg har lämnats till skolan

Närskrivning

Namn/förtydligande

Ronneby kommun  
Utbildningsförvaltningen

Postadress 373 80 Ronneby  
Besöksadress Stadshuset  
Webbplats [www.ronneby.se/utbildning](http://www.ronneby.se/utbildning)

Telefon 0467-61 81 43  
Telefax 0467-61 04 50  
E-post [utbildningsskolasist@ronneby.se](mailto:utbildningsskolasist@ronneby.se)

2013-04-16

出典：RONNEBY KOMMUN Utbildningsförvaltningen,

<https://www.ronneby.se/download/18.53b03efd15ecf6f80a352b01/1507117558235/Beg%C3%A4ran%20om%20studieomd%C3%B6me%20-%20betyg%20i%20s%C3%A4rskolan.pdf> (2022 年 10 月 9 日参照)。

評価に関して、基礎学校では6年生の秋学期以降に成績がつけられ、A, B, C, D, E, F 評価が用いられる。A～E は合格、F は不合格を意味する。教員が不合格と判定した場合、教員は子どもの学習に関して書面評価を行わなければならない。

知的障害特別学校の教育を修了した子どもは、教育証明書(intyg)を受け取る。子どもまたは保護者が希望した場合証明書には、資料1に示されるような子どもの学習遂行能力を記述した教員の署名付き学習報告書(studieomdöme)を添付する。

知的障害特別学校では、子どもまたは保護者が希望すれば、全ての教科で6年生から9年生までの成績が示される。評価はA, B, C, D, Eのみ使用され、不合格Fはない。子どもが基礎学校学習指導要領を履修している場合は、評価を要求する必要があることを早い段階で子どもと保護者に伝えることが重要、と指摘されている。

一方、知的障害特別学校で学ぶ基礎学校の子どもは、知的障害特別学校の学習指導要領に沿った教科内容・科目領域を学ぶことはできず、知的障害特別学校の科目に適用される知識要件に従って評価されることもない。

重度知的障害を対象とする訓練学校学習指導要領では成績評価は示さない。表1に知的障害基礎学校(Grundsärskola)と重度知的障害を対象とする訓練学校(Träningskola)の学習内容を比較する。

表1 軽度知的障害を対象とする知的障害基礎学校(Grundsärskola)と重度知的障害を対象とする訓練学校(Träningskola)の学習内容比較

Ämnen i grundsärskolan	Ämnesområden i grundsärskolan
Musik音楽 知的障害基礎学校の教科	Estetisk verksamhet 芸術活動 訓練学校の教科領域
Bild 美術	
Slöjd 手工芸	
Svenska eller svenska som andraspråk スウェーデン語もしくは第二言語としてのスウェーデン語	
Engelska 英語	Kommunikation コミュニケーション
Modersmål 母語	
Idrott och hälsa 体育と健康	
Hem- och konsumentkunskap 家庭科	Motorik 運動
Samhällsorienterande ämnen (geografi, historia, religionskunskap och samhällskunskap) 社会系科目	
Naturorienterande ämnen (biologi, fysik och kemi) 自然系科目	Vardagsaktiviteter 日常生活動作
Teknik 技術	
Matematik 算数・数学	
	Verklighetsuppfattning 環境把握

出典：Skolverket (2019) Grundsärskolan är till för ditt barn, 6.

このように、知的障害基礎学校は、基礎学校と同じ教科を保障する。訓練学校は教科領域として学習活動を構成するのである。このように独自の教科領域が保障されていることも、スウェーデンにおいて知的障害特別学校の学習指導要領が維持されている理由の一つだと考える。

次に資料2に示されるように、知的障害基礎学校と基礎学校の教科別授業時間数の相違および資料3の訓練学校の時間数についてみる。



資料 2 知的障害基礎学校と基礎学校の教科別授業時間数の相違

**JÄMFÖRELSE MELLAN GRUNDSÄRSKOLANS OCH GRUNDSKOLANS TIMPLANER**

	知的障害基礎学校 Grundsärskolan	基礎学校 Grundskolan
Bild	225	230
Hem- och konsumentkunskap 家庭科	525	118
Idrott och hälsa	750	500
Musik	395	230
Slöjd	730	330
Svenska eller svenska som andraspråk	1 300	1 490
Engelska 英語	180	480
Matematik	1 005	1 020
Samhällsorienterande ämnen: geografi, historia, religionskunskap och samhällskunskap	695	885
Naturorienterande ämnen: biologi, fysik, kemi och teknik	785	800
Språkval		320
Elevens val 選択科目	195	382
<b>Totalt garanterat antal timmar</b>	<b>6 785</b>	<b>6 785</b>
Därav skolans val 学校選択	1 800	600

Antalet timmar i ämnena hem- och konsumentkunskap, idrott och hälsa och slöjd är betydligt fler i grundsärskolan än i grundskolan. Ämnet engelska har i grundsärskolan betydligt färre timmar än i grundskolan.

資料 3 訓練学校教科領域時間数

**TIMPLAN FÖR GRUNDSÄRSKOLANS INRIKTNING TRÄNINGSSKOLA**

Estetisk verksamhet	995
Kommunikation	995
Motorik	995
Vardagsaktiviteter	995
Verklighetsuppfattning	995
Elevens val 選択科目	190
Fördelingsbar undervisningstid	1 500
<b>Totalt garanterat antal timmar</b>	<b>6 665</b>

分割可能教授時間

出典：Skolverket, Stenungsunds kommun(2016)Särskolan är till för ditt barn, 5, 7.

知的障害基礎学校と基礎学校の教科は同じであるが、知的障害基礎学校は家庭科の時間が多く、基礎学校は英語が多く時間配分されていることがわかる。また知的障害基礎学校では学校選択の時間が基礎学校の3倍設定されているので、子どもの実態に応じた教育活動を構成できる。訓練学校は5領域に対して995時間を配分している。その上で分割可能教授時間が1500時間設定されている。

### 3. 考察

現在スウェーデンでは、1つの教室内に2つの学習指導要領を履修する子どもがいることを想定した授業実践が求められている。インクルーシブ教育推進のための統合教育は、知的障害特別学校児の基礎学校での学びの保障のみならず、基礎学校の学習指導要領を履修しているが学習困難を示す子どもの知的障害特別学校での学びも保障する。そのため資料4のように、子どもの立場から見ると特定の教科は知的障害特別学校の学習指導要領を履修し、特定の教科は基礎学校の学習指導要領を履修することになる。

資料 4 学校庁「同時履修」案内動画①（写真は手話での説明）資料 5 学校庁「同時履修」案内動画②

**ELEVER MED INTELLKTELL FUNKTIONSNEDSÄTTNING**

知的障害特別学校の  
学習指導要領

基礎学校の  
学習指導要領

**ELEVER MED INTELLKTELL FUNKTIONSNEDSÄTTNING**

知的障害特別学校の  
学習指導要領

教科  
↑↓  
教科領域  
ÄMNESOMRÅDEN

出典：学校庁「同時履修」案内動画。

そして、資料5のように知的障害特別学校の学習指導要領の中でも教科として学ぶ場合と、教科領域として学ぶ場合がある。

知的障害特別学校の子どもは、基礎学校評価と比較的軽度の知的障害児を対象とした知的障害基礎学校評価、そして比較的重度の知的障害児を対象とした訓練学校評価を受ける可能性がある。一方で、基礎学校の子どもは基礎学校評価、知的障害特別学校学習指導要領の履修の可能性はある。しかし、知的障害特別学校の評価は受けられない。基礎学校の子どもは、基礎学校学習指導要領として習得できなかった教科は、図6に示されるように、高校の「導入プログラム(introduktionsprogrammen)」もしくはコミュニケーション立成人学校で「補習」を受ける。

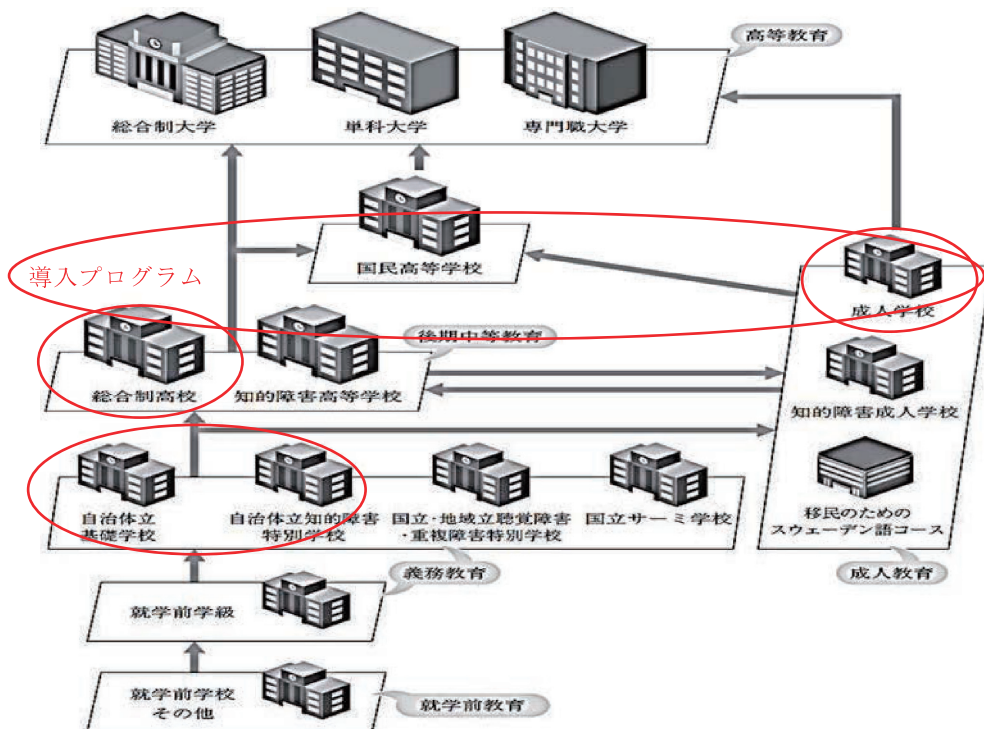


図6 スウェーデンの教育制度

出典：石田祥代，是永かな子，眞城知己編著(2021)『インクルーシブな学校をつくる：北欧の研究と実践に学びながら』ミネルヴァ書房, 68.

以上を総括するならば、「通常学校の学習指導要領と知的障害特別学校の学習指導要領の同時履修」は知的障害教育が可能な限り通常教育に接近していく二元的インテグレーションではなく、基礎自治体立学校が地域の全ての子どもへの教育保障を目指す、多元的インクルージョン実現のための方策の一つであることが示唆された。



図7 国立特別教育研究所 (Specialpedagogiska skolmyndigheten, SPSM) によるインクルーシブ教育モデル

出典：SPSM, Inkluderande utbildning, <https://www.spsm.se/stod/inkluderande-utbildning/>.

図7の国立特別教育研究所(Specialpedagogiska skolmyndigheten, SPSM)によるインクルーシブ教育モデルに示されるように、多様性を前提に、公正と公平を追求しつつ、有効な学びとコミュニケーションを保障することで、支援的で質の高い教育や参加を促進する組織と措置を具体化することが、平等な教育としてのインクルーシブ教育であり、通常学校の学習指導要領と知的障害特別学校の学習指導要領の同時履修はその一助になることが期待されていると考察した。

#### 4. 謝辞

本研究は科研費(18K02793)の助成を受けたものである。

---

#### 註・引用文献

<sup>1</sup> 外務省, 障害者の権利に関する条約(略称: 障害者権利条約)

[https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken/index\\_shogaisha.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken/index_shogaisha.html)(2022年10月9日参照)。

<sup>2</sup> 文部科学省中央教育審議会資料1 特別支援教育の在り方に関する特別委員会報告 [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1325884.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1325884.htm)(2022年10月9日参照)。

<sup>3</sup> SOU 2004:98, 89-90, 282-286.

<sup>4</sup> Skollagen7 kap. 9 §.

<sup>5</sup> Skolverket, Grundsärskolan blir anpassad grundskola 2023, <https://www.skolverket.se/undervisning/grundskolan/aktuella-forandringar-pa-grundskoleniva/andrade-laroplaner-och-kursplaner-hosten-2022>(2022年10月9日参照)

<sup>6</sup> Skolverket(2015) Integrerade elever.

<sup>7</sup> Skolinspektionen(2016) Integrerade elever Undervisningssituationen för elever som är mot-tagna i grundsärskolan och får sin undervisning i grundskolan, Kvalitetsgranskning 2016.

<sup>8</sup> SPSM, Nytt studiepaket hjälper skolor ge integrerade elever bra undervisning., <https://www.spsm.se/om-oss/pressrum/pressmeddelanden/pressmeddelanden/nytt-studiepaket-hjalper-skolor-ge-integrerade-elever-bra-undervisning/>(2022年10月9日参照)。

<sup>9</sup> SPSM, När kan man tillämpa omvänd integrering i sarskola?, <https://www.spsm.se/stod/fraga-en-radgivare/fragor-och-svar/fragor-och-svar/nar-kan-man-tillampa-omvand-integrering-i-sarskola/>(2022年10月9日)。

令和4年(2022)10月28日受理  
令和4年(2022)12月31日発行



